

2020年1月発行 No. 118

発行者 田森 茂基 編集者 森 洋子

発行所 070-0058 旭川市8条西1丁目1-11

旭川バプテスト教会内

http://hokkaidobap.jimbo.com pw: jbc1947

巻頭言「さあ今、論じ合おう」

杉山 望 (北海道連合役員、札幌教会副牧師)

「主は言われる。さあ、論じ合おう。あなたがたの罪がたとえ緋のようでも、雪のように白くなる。たとえ紅のように赤くても、羊毛のように白くなる。あなたがたが進んで聞き従うならば、地の良き実りを食べることができる。あなたがたが拒み逆らうならば、剣の餌食になる。主の口がそう語られる。」

イザヤ書1：18～20

先日、アフガニスタンで中村哲氏が襲撃され、現地スタッフと共に命を奪われました。医師であった中村氏は現地の状況を見て、医療よりもまずは水が必要であると判断し、井戸掘りや用水路建設を行ってきました。その働きを通して、16,500ヘクタールの土地が潤され、65万人の生活が維持できるようになりました。アフガニスタンは元々農業国で、穀物自給率は9割を超えていました。しかし、2000年から始まった大干ばつと、2001年の同時多発テロへの報復として始まった戦争によって国土は荒れ果て、自給率は6割以下まで激減しました。そのために数十万人が難民となり、国民の4分の1にあたる760万人が緊急の飢餓状態に陥っています。

現地の人々の望みは、「故郷で家族と毎日3度の食事を食べることだ」、と中村氏は語っておられました。干ばつは、先進諸国が引き起こした地球温暖化が大きな要因です。また、長引く紛争とテロによって、4万人以上の民間人が犠牲になっています。中村氏らの活動は、人々の命を繋ぐものですが、温暖化が進み、紛争が続くならば、状況はさらに

悪化するでしょう。生活の基盤を破壊され、ある人は国外へ逃れ、ある人は生きるために銃を手に入れました。経済においても、軍事においても、より大きな力を欲する先進諸国の傲慢が、アフガニスタンの人々の尊厳を踏みにじり、命を奪っています。

紀元前701年、帝国アッシリアによって他の町々が破壊・略奪された中、ヒゼキヤ王は降伏し、エルサレムだけが生き残りしました。しかしイスラエルは以前と何も変わらず、形だけの献げ物や祭りごとを続けました。都の中では、なおも寡婦や孤児といった社会的弱者が虐げられていました。主はそのような献げ物を忌み嫌い、祭りごとに耐えられないと嘆きます。献げ物も祭りごと、本来は主に喜ばれるものでしたが、主への悔い改めなく、人々の間に公正を求めないならば、それらのものも主にとって重荷でしかありません。

主は悔い改めへと招きます。私たちが罪によって真っ赤になっていたとしても、雪や羊毛のように白くなることができると語ります。そのために、私たちが主と論じ合い、公正が行われるように主に従う道へと方向転換することが求められています。イザヤはイスラエルの指導者の責任を問いました。今の世界においては、政治的な指導者はもちろんのこと、世界の富を独占する大富豪やグローバル企業も、その責任を問われるべきでしょう。それと共に私たちも、これからの社会について、これからの教会の宣教について、主が求める道を真剣に求める必要があると感じています。

もし私たちが、そして世界が悔い改めることができるなら、荒廃した地も再び良い実りをもたらすようになります。まだ遅くはありません。しかし、先延ばしすることもできません。さあ、論じ合いましょ。

■北海道バプテスト連合壮年会札幌・小樽 ブロック集会 2019年11月2日(土) の報告■

北海道バプテスト連合壮年会札幌・小樽ブロックの集会を、去る2019年11月2日に札幌教会で開催しました。今回は久しぶりの開催ということと、十分な連絡体制が取れていないこともあり、文書による呼びかけで開催しました。今回の集会は、西南学院神学部の協力の下、出前講座として、濱野道雄教授の在外研究報告を中心に行いました。既に、「世の光」で2018年度の1年間に亘って濱野先生の報告がされましたが、今回は実際にパレスティナの地に住まわれた感想を含めて、詳細な住民環境についてもお聞きし、日本にいるクリスチャンとして何をすべきかについて思いを整えることを目的として実施したものです。

第1次世界大戦において1914年に、イギリスがオスマン帝国と戦うために編み出したいわゆる3枚舌外交(バルフォア宣言など)に伴い、それまで、パレスティナでは、アラブも、ユダヤもキリスト者も仲良く暮らしていたのにも拘わらず、その後強引なユダヤ人国家であるイスラエルの建国に向かい、結果として3次に亘る中東戦争を経、パレスティナに、天井のない収容所という悲惨な状況を生み出していった経緯が語られました。

■ 北海道連合女性信徒の会活動報告 各ブロック集会を終えて ■

主のみ名を賛美します。

女性信徒の会の活動を覚えお祈りくださりありがとうございます。

2019年度の女性信徒の会はブロック集会と『ユニケ第42号』の発行を活動予定としていますが、そのうちのブロック集会が7月14日(日)平岡ジョイフルチャペルにて(道央)、9月15日(日)~16日(月)旭川教会にて(道東)、11月4日(月)函館美原キリスト教会にて(道南)開かれました。

道央ブロックでは三上章氏(元北星学園大チャプレン)による奨励がその場に集まった方々を和ませてくださり、道東ブロックでは日

しかし、国家権力の暴力の下でも、住民同士は、苦しい生活の中でも、アラブのモスレムとユダヤのユダヤ教徒は仲良く生活を共存させてもいるという二重性も教えられ、現にある「イスラエル」という国家と聖書の約束した「イスラエル」を混同する愚かしさもまた知ることが出来ました。そして、現に住んでいる人々の間に、政治権力によって強引に死がもたらされていることも知ることが出来ました。パレスティナのアラブの人たちは、本当に貧しい生活を、そして生命の危険も抱えながらの生活であることを知り、われわれ日本にいるキリスト者がそのことに強い関心を持つことが本当に必要であることを共に覚えることの出来た集会でした。現地の女性たちの手作りのバックやストールの即売会もあり、好評な内に終わることが出来ました。

参加して下さった方々は、4教会30名でしたが、そのうち女性信徒の方も多く、また、他教派の方の参加も得ることができました。協力下さった西南学院大学神学部に感謝したいと思います。

(文責：札幌バプテスト教会 浦瀬 佑司)

曜の夜から近況報告や釧路教会から参加された90歳の信仰の先輩のお話を聞くことが出来ました。道南ブロックでは私自身初めて函館美原キリスト教会をお訪ねすることとなり各教会の近況報告など交わりの時をいただいて感謝しています。

それぞれの集会の中で「私たちの働き～ネット社会を考える～」という統一テーマで懇談の時を持っていただくことが出来ました。インターネット社会の中であって個人的にもまた教会としてもどのように関わりどのように対応しているのか、心配なことや配慮しなければいけないことなど、至らない私の司会にもかかわらず、参加者の方々がそれぞれ思うところをお話しくくださりとても良い交わりの時となりました。世の中の多くの方がスマートホンを持ち歩き、家でパソコンを開いて何かを調べたり買い

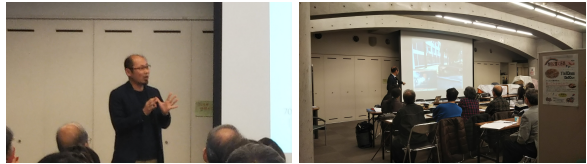
物をしたりする時代の中で、関わらずにいられなくなってきたのも事実です。教会でどのように用いて行くかそれぞれの教会で話し合いのきっかけにでもなれば嬉しいです。各ブロックの担当教会のみなさまには大変お世話になり感謝いたします。

ブロック集会での奨励・メッセージや懇談時の話の内容・感想は『ユニケ第42号』にて今年度中にはみなさまのお手元にお届けする予定で現在編集作業中です。引き続きお祈りいただけると嬉しいです。 主にありて
(リビングホープ教会 定免 直末)



■ 信徒セミナー (2019年10月13~14日)
報告「ここがわたしたちの現在地」■

北海道バプテスト研修センターよりご報告です。「第9回 信徒セミナー」を開催しましたよ。ときは2019年10月13日(日)午後7時~14日(月)午後2時、会場は札幌教会。「わたしたちの現在地」というテーマで、内藤崇さん(東京地方バプテスト教会連合会長/日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会員)を講師にお迎えしました。これからの北海道連合、諸教会の伝道・教会形成を考えてゆくときに、まず今、連合は、それぞれの教会は、私たちはどんなところに立っているのだろう、ということを考える時としたい、と企画しました。



講演の大量な情報量に、ついていくのが大変でおとっと！という感じでしたが、引き算の改革から(現状から)足し算の改革(ゼロから)へなど、柔らかな発想に参加の皆さんも刺激を受け、講演後のグループでの分かち合いでも積極的に自分の教会について振り返り、分かち合うことができました。

参加者は部分参加も含め78名(うち子ども10名、ナーサリースタッフ3名)。おりから関東上陸で大変な被害をもたらした台風19号が到来。飛行機がバタバタと運休になる中、内藤さんにはスケジュールを調整して前乗りしてセミナーに備えて頂き、感謝でした。参加者からのアンケートからは、視点の転換を頂いたり、元気を頂いたりという様子が伺えました。

セミナー開催にあたりご協力くださいました皆様、ありがとうございました！

研修センターでは、セミナーや研修会についてのリクエストの声もお受けしていますよ。どうぞご意見お聞かせくださいませ。

(川内裕子/研修センター運営委員長)

昨年度行われた「協力伝道会議」で“教会の過去・現在・未来”について語り合う場が持たれましたが、今回はその議論をも踏まえ、深めていこうと企図しました。開会礼拝では田森茂基連合会長に昨年の「協力伝道会議」について語って頂きました。

講師の内藤さんは、講演①「東京地方連合をなぜ改革したか」で、東京地方連合の改革の取り組みについて語って下さいました。各教会の教勢弱体化、資金面の不足などの現状把握からはじめ、「活動母体の主体的な活動」や「応能負担」など自由さのある取り組みを伺いました。講演②「これからの教会、連合、連盟、社会」では、東京地方連合の協力伝道会議を材料として紹介しつつ、「いま」を柔軟な目で捉えました。

■60周年を迎えて 室蘭教会 吉田 尚志■

主の御名を賛美いたします。

2019年度、室蘭バプテスト教会は伝道開始60周年を迎えました。この節目に際し当教会では、「教会の歴史を見つめ、神さまに感謝しよう」という年度主題のもと歩みが進められています。60年の歴史にわたって当教会に寄り添い共に歩んでくださった神さまとすべての方々に対する「感謝」を大切にしています。同時にこの60周年が、教会にとっての「悔い改め」の機会としてあると捉えています。60年の歴史の中で見過ごしてきた自らの至らなさを真摯に受け止め、イエス・キリストによって赦された罪人として、この機会に自分たちの歩みを振り返り、悔い改めるべきことを悔い改め、神さまに向かって新たに歩み直してゆこうとしている日々が続いています。

そのような歩みのなかで、2019年11月10日(日)当教会を会場に「60周年記念感謝礼拝」を行いました。当日は苦小牧教会の皆さまもお越しくださり、共に節目の礼拝が献げられました。苦小牧教会の皆さまに至っては、自らの礼拝に牧師と信徒の2名だけを残し、その他の全員が当教会の記念礼拝に駆けつけてくださったということで、あらためて苦小牧教会の皆さまの当教会に対する篤い想いに感激いたしました。礼拝では特別賛美として、60周年を記念して自分たちで作った賛美歌「振り返れば」が聖歌隊によって献げられました。また、テサロニケ人への第一の手紙5章16-18節から、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」という題名のメッセージがなされました。礼拝後は持寄り愛餐会の時を持ち、共に食卓を囲みながら様々な話題に花が咲きました。その後もう一つの記念プログラムである「感謝と賛美の集い」を行い、当教会と苦小牧教会の皆さんに事前のアンケートでお聞きしていた愛唱賛美歌が共に献げられ、また、数名の方による証しが分かち合われました。

室蘭バプテスト・キリスト教会にとってこの60周年の機会は、この時でしか得られない神さまとの深い出会いの時となっています。イエスさまとの絆に信頼し、一人ひとりが歩んできた教会の歴史を互いに見つめ合いながら、2019年度残りの日々も感謝と悔い改めの時を過ごしてゆきたいと想います。

60年という長い年月にわたって室蘭バプテスト教会に想いを寄せ共に歩み続けてくださった北海道連合諸教会の皆さまに心から感謝いたします。主にありて

北海道バプテスト連合 [協力献金口座]:
郵便 19000-17922911

■アピール『里塚支援のためにお祈り・ご協力ください』■

札幌バプテスト教会 石橋 大輔

2018年9月に起きた北海道胆振東部地震によって、地盤の液状化現象が起き、現在もなお住宅が傾いた状態で過ごしておられる清田区里塚地区の皆さんのために、札幌YWCAと日本基督教団北海教区と共に支援活動を行おうとしています。YWCAと教団とは、震災以降むかわのこども発達センターたんぼぼの支援で協働してきました。

先日もたれた同センターでのクリスマス会には、室蘭の吉田尚志牧師や小樽のエイカズ愛牧師、当教会の南雲姉と田仲姉もボランティアに加わっていただきました。里塚地区に対しては、これまで約一年間、YWCAの皆さんが月に何度も現地に足を運び、歌声サロンや編み物・体操教室などを定期的に開き、現地の皆さんとの関係を築いてきてくださいました。また、今年五月にはドイツからのゲストをお連れして、会館にてチャリティー・コンサートも行いました。

その関係の延長で、2020年1月から月に一度の「お茶会」開催を計画しています。東日本大震災後に、岩手県野田村の仮設住宅で行ったお茶会には、全国各地からの名菓や名産の果物などが届き、「まだ全国の皆さんが覚えてくれているんだ」と仮設の皆さんも喜んでくれたことを思い出しています。今回も、できればそのような形で支援をお願いできればと願っています。

開催予定日は1月10日(金)、2月7日(金)、3月6日(金)です。

情報があれば寄せていただけると助かります。また活動のためにどうぞお祈りください。

◇ 連合役員会より ◇

2020年度北海道連合定期総会:

日時 2020年4月29日(祝・水) 10:00~15:00
会場 札幌教会

◎ 連合役員会では、2020年度定期総会に向けて、特に以下の件について準備中です。

* 連合総会への役員会以外からの議案提出について

* 連合からの活動補助費の運用に関するガイドラインの策定について

* 連盟「宣教会議」に各地方連合から2名を派遣する件

* 災害対策委員会の常設委員会としての活動休止
☆ 近々、詳細を送付予定。お祈りください。

北海道連合災害対策委員会(災害対策委員会口座):
郵便 19000-21316651